六月二十一日 夕刊

日刊 但し日曜祭日翌日休刊
定價 一ヶ月 二十五錢 一部二錢
郵税 十五錢
廣告料 一行四十錢 場所指定 二十錢増
發行兼編輯印刷人 半谷政喜
發行所 福島縣平市大町二十三番地 新いわき新聞社

支那單語

胡麻油を香油と稱してシアンユウ、バタは黄油でホアンユウ、牛乳をニウナイ、コーヒーはカーアフエー、紅茶をホンチアー、曹達水は汽水でチーシユイ白湯は開水でカイシユイ

參事會及び各委員の改選を控いた平市會
特戸割の賦課で來月招集の同會に繰上げの振當か

平市會は來る二十五日頃招集の豫定であつたが議員側に事故多いため來七月上旬に繰延べられた主なる件目は特別戸數割前期六萬九千五百三十六圓(全額一三九〇七一圓、一戸平均二四圓七四錢)賦課決議及び警防團關係の追加更正豫算その他の模樣であるが今市會には去る昭和七年市制施行直後に於ける八月十四日選擧せる市參事會員、土木、水道警備、學務、傳染病豫防委員及び三十三ヶ區長等法的に設置されるもの全部を選任したる滿期改選を控いてゐるので共の繰上げ選任をなすことになるかも知れず其の場合はこの振り當て等に相當の折衝あるものと見られてゐる

天水地は困るが江筋掛大喜び
鮫川堰の蘇生で

石城地方は今年の空梅雨に天水をまつ山間地は田植えが出來ず困つてゐるが今灌漑期から初めて通水を見た鮫川堰關係水田は從來水に困つた苦痛を漸く逸かれて疏水の有難さに大喜びまた既報せる小川江水路神谷村下片寄地内の分水に少ない苦情を持ち込んだ同灌漑關係五十餘町歩の部落民も組合事務所の善後處置により本流の水位を高めたことによつて滿足し無事解決した

故井上消防組頭の記念碑を物見岡に
松井博士揮毫の篆額と碑文
消防關係者の千五百圓で

故平消防組頭井上茂作氏は殆んど全生涯を消防に終始した我が國消防界の功勞者であつたことは今更云ふ迄もなきほどに知られてゐる同氏の指訓に輝ける平消防組の榮譽は勿論、同氏を出した平市の誇りとされて舊消防組關係一同に永く之れを傳ふべく最初銅像建設の計畫であつたが今回それを記念碑に變へ碑文及び篆額を共に故人との交厚かつた松井消防博士に揮毫を請ひ位置を舊城跡物見ヶ岡の高燥地に撰み來る舊七月十五日頃除幕式を擧行の筈で所用材料を手配中である石は碑台共に地元石城産の自然石とし碑の高さ十尺、巾五尺總工費千五百圓の豫算であるが少數の特志寄附の外は殆んど舊消防關係者に於て醵出することになつてゐる

第六日目の四倉繭市況
白繭聊九二圓八〇 黄繭は八八圓〇〇

四倉繭市場昨二十日(第六日)の取引は白繭出廻り三〇三五貫この最高九五圓一〇錢、最低八六圓一〇錢、平均九二圓八〇錢、黄繭出廻り二〇〇貫この最高九〇圓二〇錢、最低八六圓五〇錢、平均八八圓で白繭黄繭を合せて出荷三千二百三十五貫、當日までの取扱ひ累計二萬四千七百三十一貫(白二三四九七貫、黄一一三四貫)に達した

大麥検査の事務研究會
農検平支所で

縣農産物検査平支所では明二十二日午前九時から四倉、勿來兩出張所員一同支所内に於て今收獲から實施される大麥の縣營検査事務につき研究協議をなす

ガソリン統制から自動車交通五百減
平土木昨年の二八一七台が此程の調査で二三一七

平土木監督所では平市を中心とする周圍數ヶ所外管内の十七ヶ所に於て此の程自動車の交通量を調査した其の結果は昨十三年十月十六日調査の二八一七台に比し五〇〇台を減ずる二三一七台で平市内二ヶ所の二一二台減をはじめ小名濱、湯本その他が何れも減少の中に四倉、磐崎、川前、石住、鹿島の五ヶ所のみが僅少の増加であつて調査地の量を上ぐれば左記の如く原因はガソリンの統制にあることが云ふ迄もない、

▲平五七一(七一二)同平窪地内一一八(一八九)湯本一三八(二二二)小名濱二九六(三〇八)神谷一〇七(一三二)四倉一四四(九二)渡邊一二八(一八一)錦一七九(二八一)上小川三四(三二)磐崎七八(六八)上遠野一二一(一一一)石住四一(三六)鹿島五九(五七)豐間六八(一一四)江名一二五(一五六)川前二三(一七)上小川一八(一九)以上

石城産馬の臨時組合會
雛市改正に付

石城郡産馬畜産組合では今二十一日午前十時から組合の臨時會を開き來る三十日から開始される駒雛その他につき協議をなす尚ほ改正せる雛市場日割は次の如くである

▲三十日より七月三日まで 上遠野市場(黑田市場合併)
七月五日より七日まで中寺市場
九日より十日まで稲賓市場(小川市を合併)

戰地の便り(二)
四月の大討伐を豪雨中に不眠不休
石城郡高久村出身 大谷藤太郎

我々は四月の大討伐、折柄の豪雨の中を不眠不休で、よく其の任務を遂行し(不肖私もそれに參加)もつて第二回目の軍感狀を授與されました、其の後警備隊區城の掃蕩、宣撫勤務に服し居ります、勢帶地故に日に増し暑さ加はり只今百二、三十度以は普通です、夜間は蒸暑く十二時頃までは睡眠不能です、諸病も流しますが小生は(神かけし銃後の願に對し戰で死すとも病で死すまいと)また勝つて來るぞと誓つた勇士、病氣で殪れては銃後に濟まぬと益々頑張つて居ります、此の點は御安神下さい、これも偏に皆々樣の熱誠溢るゝ御指導と御守護の賜であると深く感謝致して居ります歸還などは先づ判らない時期の到來をまつより他になし、隣の部隊は皆九州兵ですが我々よりも滿一ヶ年早い、〇〇才から〇〇才の働き盛りのところ、我が部隊東北健兒として戰鬪には負けないつもり、負けるのは面會した時に早辯の爲めこちらで一と言云ふ間に二た言云はれる位のもの、然しこんなことに負けても一向差支へなく東北健兒の覺悟は此まゝ四、五年戰地に止まつても屁とも思はぬと眞の覺悟をきかせると、九州男兒にも其の決心はあるだらうが我々の眞面目さには目をまるくするのです、

輪王寺宮御旅泊遺蹟建碑趣意
御遺蹟保存會謹識 【五】

以下全國の御尊蹟には公私各自に小祠を造營し或は碑石を建立して、其の偉烈を追偲し奉るに拘らず、獨り石城郡内御三泊の宅跡若しくは御少憩趾の諸所には之れが御記念の標識は無論、神社をも未建なるは、寔に國民として恐懼の次第にて況してや本郡と親王の御由緣りとに於て、痛歎遺憾と謂はずして他に辭ありや、但し平濱町役場、又左衛門宅及び岡部宅等には明治中既に之れが奉祀或は表示碑のありしと聞くは眞に稀幸と謂ひつべきなり、

(5)嘗て昭和二年三月三日本郡出身の史家諸根樟一氏は甚だ之れを慨せられて、先づ平町長伏見彦衛、泉村長中村立朔の二氏に書を呈して、其の各御假泊の跡に敬表の方法を進言したりきされど兩氏これを實現するに至らず、今尚尊蹟には何等の標示も祠宇もなし、アヽ嘘、

こゝに於てか同氏は、近年に至るも未だ之が企劃なきを太だ慨嘆し、更に同地の比佐昌平氏と諮りて、復び之れを實現せむとして應援を要めたりき、是より先き昭和四年七月十八日、親王第三王子海軍中佐小松輝久侯爵には簡閲點呼のため軍艦「五十鈴」に乘じて小名濱に來泊の時、豫ねて父宮親王の東奥御流寓、初旅の御泊迹を訪ね偲び奉らむとして其の日午前九時御上陸して、先づ泉、湯本、平に詣でさせられたり、其の際平町長伏見彦衛氏は諸根氏に急遽依囑し、即ち小名濱から平に至るの道中、勿休なくも小松侯の自動車に隨乘して御關係史說を申述べ以上了りて、父宮の嘗て御二夜目の旅館に充て給ひし飯野八幡神主宅を訪ねて暫く御休憩、序で磐城中學校に臨み全生徒に訓辭を與へられた、

コンクリートの壁落ちて椿事
二名即死一名重傷

石城郡湯本町の寶海地内湯川縁に於て去る十八日午前十時半頃同町傾城四〇寅吉二女尋常四年生今井せつ子(十一)と同地久吉四女尋三生遠藤きよ子(一〇)同妹しめ子(五)及び同地重吉三女中津きぬ子尋三生(一〇)が川淵に笠の様に突入してゐるコンクリートの長八尺巾七尺、厚一尺五寸が突然墜落し其の下敷となつたせつ子ときよ子は無慘の即死、きぬ子は重傷しめ子のみは無事のため泣く〳〵歸宅したことから椿事が判り大騷ぎとなつて重傷者と即死者をひき出したが平署の取調べにもコンクリートの墮落原因が不明で尚ほ重傷のきぬ子も生命危篤

神谷の泥余罪

東京市淺草區北原町荒井進(三〇)は去る十八日石城郡神谷村鈴木武夫方に忍び洋服衣類價四十圓を窃取して昨二十日平署に検擧取調べの結果相馬郡小高町に於て自轉車及び白米を窃取せる餘罪を自白す

湯本生の少年泥

石城郡湯本町の水野谷生れ齊藤五郎假名(一八)は昨年中同町の小林孝次郎方から腕時計價四圓及び同町天王崎齊藤發美方に忍び入り現金十八圓と衣類七點を盜んだこと發覺して昨二十日平署に検擧された

電話御讓り致したし
詳細は本社に於て

事務家諸兄に
ムッソリーニペン を奬む
國産品に斯んなよいペンがあるのは喜ばしいことです、書きよい、耐ちよい、錆びない、三拍子揃つたペンです、
ムッソリーニペン特約店
(文)魁文堂 電話313番

農業方面

農業の機械化 今や轉換期【二】

勞働力の不足に 經營の合理化も

動力機械中最も普及してゐる脱穀機では例へば麥の脱穀は作業人員が六人で一日七反歩の脱穀作業が出來るが人力による足車式脱穀機では人員三人で一反歩の脱穀しか出來ない、即ち動力機械によれば三倍以上の能率があるわけである、またトラクターの能率は運轉者一名で一日に五反歩以上の作業が出來るが同一作業を馬耕の場合は二倍内外、人耕の場合は十二倍から十倍の日數を要することゝなつてゐる、

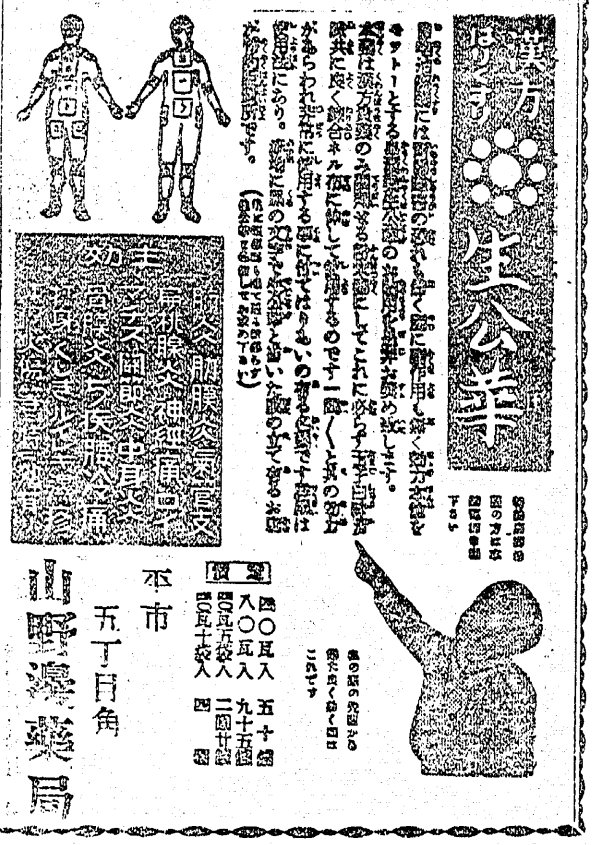
また更に經費の點からこれを見るなれば、

動力脱穀は足踏脱穀の二分の一以下、トラクターでは馬耕の場合の三分の二、人耕の場合の二分の一、

となつて居り、何れの場合でも農業の機械化の有利であることを物語つてゐる、

國産トラクターは小規模 農業に誂ひ向き、

トラクターの實用的輸入は大正の中葉で主として北海道東北地方の大規模經營の農場に使用されたのであるが一般農家としては價格が餘りに高價であるばかりでなく、わが國農業經營の狀況から見て不適當であつた爲め殆んど問題にされなかつた、その後國産の中型トラクターが賣り出されたこの特色は動力部と作業部が分離出來るばかりでなく我が國の小規模農業にもやゝ適合することが認められた、



一般印刷物も御引受致します
新いわき新聞社 印刷部

肉の御用命は
三二三屋
牛も豚も優良品の自慢

看護婦

漢方生公羊
[illegible]
平市 五丁目角
山野邊藥局

債券、公債 両替、金融
多田井質店
平市大工町 電話五九一番

涼味そゝる
夏物洋品愈々進出
スマートなカンカン帽子
可愛らしい…お子様帽子
婦人・子供清涼着
その他 色々陳列
つるや
平四 電140

病室増築、手術室完備
産科 婦人科 醫學博士 五十嵐雄二
平市新川町「電話三六九番」

産科婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑師 大岩俊雄
入院隨意 病室完備
木村病院
平市新川町九一 電話一六四番

和洋銅鐵、金物問屋
釜屋商店
電九・九九

今般、醫學士土井利明氏を副院長として招聘し内科、小兒科の診療に從事せしむ、
平病院（平市元共濟病院跡 電話六四一番）
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
内科 院長 鈴木定藏
小兒科 副院長 土井利明
内臓外科 一般外科 皮膚泌尿器科 副院長 高橋俊幸
レントゲン科 物理的療法科 院長 鈴木定藏
藥劑科 部長 吉本孝平
診療時間 毎日午前八時より午後九時まで夜間診療に從來す（急患は此の限りにあらず）

内科、小兒科 外科、花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科
平市田町 電話五一三番
高久病院
院長 醫學士 高久忠

便利で經濟な日下家政婦會の
派出婦を御利用下さい
身元確かで品行方正ですから何をお任せしてもご安心です
日下家政婦會
平市白銀町十番地（電話七二三番）
會長 日下すい子
會員同志の御加入（派出なき閑暇に裁縫や）を御誘ひ致します（編物をお教授致します）

診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續架工科、齒列矯正科、小兒科、齒槽膿漏科、
一、口腔外科
一、レントゲン科
平市田町（松月堂向ヒ）
中野齒科醫院
電話五〇九番
院長 日本齒齒醫學士 中野惠次
日大綴學士 鹽谷伍郎
部主任 佐藤重義

住宅地分讓
都心に近き保健境
平第三小學校東北約二萬坪
金より物の時代
安全の土地
大小各口の御相談に應ず
（御希望の方は市内田町一九蓮沼方 電話七八七番へお問合せ下さい）